

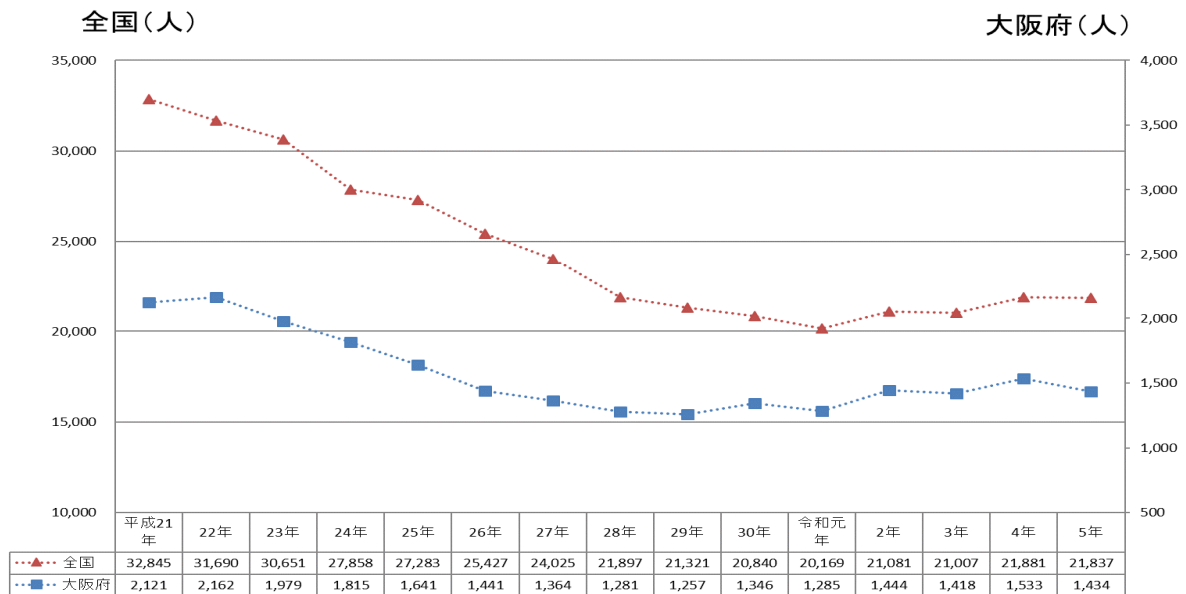
令和5年中における高槻市の自殺の状況（警察庁自殺統計）

1 自殺者数の年次推移

1) 全国と大阪府

全国の自殺者数は、平成22年から令和元年までは減少傾向でしたが、令和2年に11年ぶりに前年に比べ増加しました。令和5年は全国、大阪府ともに前年より減少しています。

図1 全国・大阪府における自殺者数の年次推移

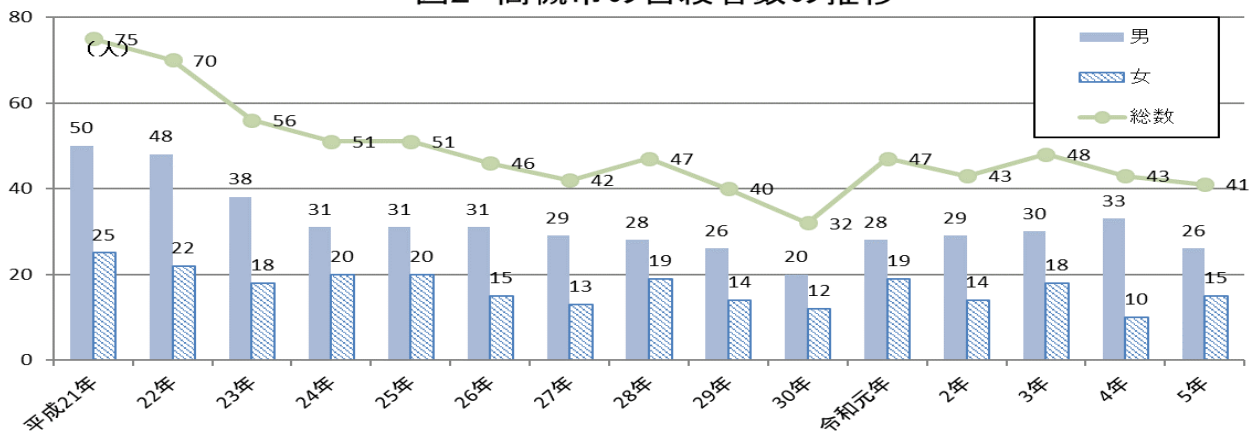


出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（発見日・居住地）

2) 高槻市

高槻市の自殺者数は、平成21年以降、減少傾向にありましたが、令和元年に増加して以降は横ばいの状況が続いています。令和5年は前年より減少し、41人となっています。

図2 高槻市の自殺者数の推移



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（発見日・居住地）

2 高槻市における自殺者の状況（令和5年）

1）警察庁自殺統計について

- ・対 象：総人口（日本における外国人を含む）
- ・調 査 時 点：発見地を元に死体発見時点で計上
- ・訂 正 報 告：捜査等により自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し計上
- ・原因・動機別：令和3年までは遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を一人につき3つまで計上していましたが、令和4年からは4つまで計上しており、単純比較できません。

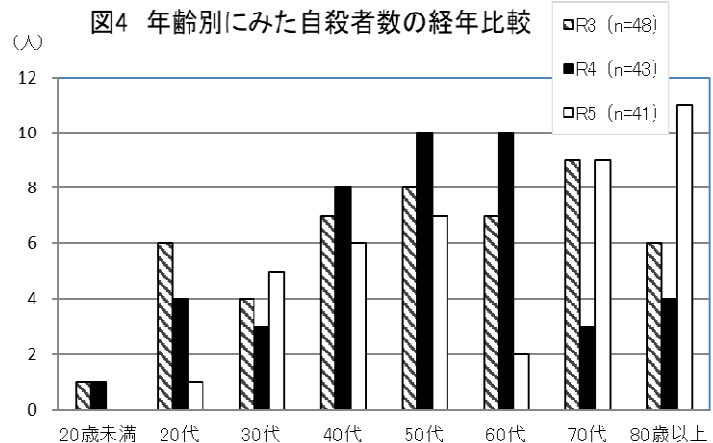
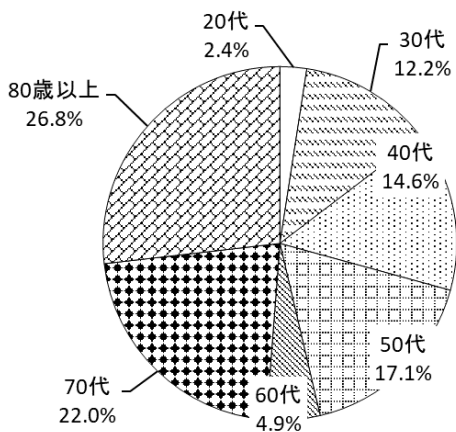
2）集計結果（厚生労働省：「地域における自殺の基礎資料」発見日・住居地を基準として作成）

①年齢

年齢別自殺者数の割合は、「80歳以上」が最も多く、次いで「70代」となっています。

令和5年は、「30代」「70代」「80歳以上」の自殺者数が増加しています。

図3 年齢別自殺者の割合(%)



②職業

令和5年の職業別自殺者数の割合では、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで「有職者」となっています。

図5 職業別自殺者の割合(%)

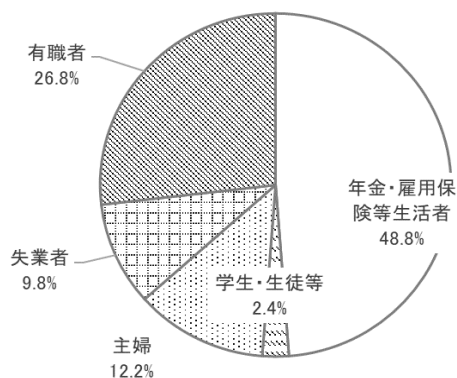
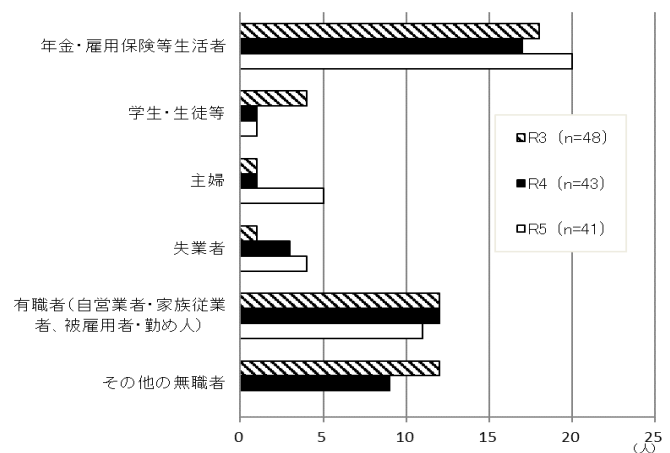


図6 職業別にみた自殺者数の経年比較

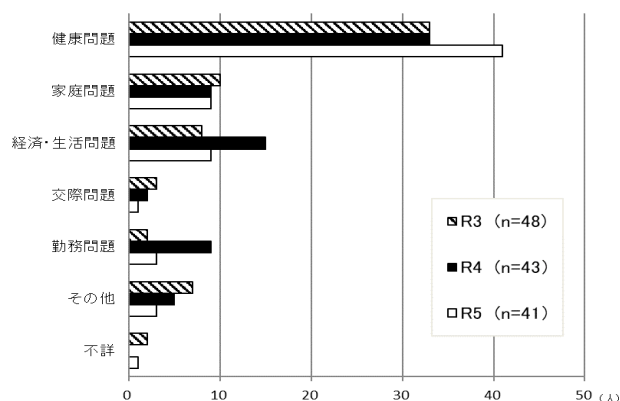


③原因動機（複數回答）

令和5年の原因動機別自殺者数では、「健康問題」が最も多くなっており、次いで「家庭問題」「経済・生活問題」の順となっています。

※令和３年までは遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を一人につき３つまで計上していましたが、令和４年からは４つまで計上しており、単純比較はできません。

図7 原因動機別自殺者数・経年比較(複数回答)



④手段

令和5年の手段別自殺者数の割合では、「首つり」が最も多く、次いで「飛降り」となっています。

図8 手段別自殺者の割合(%)

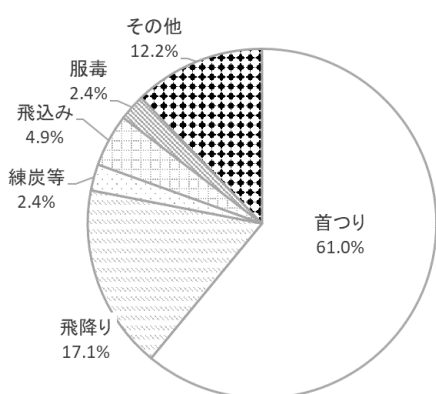
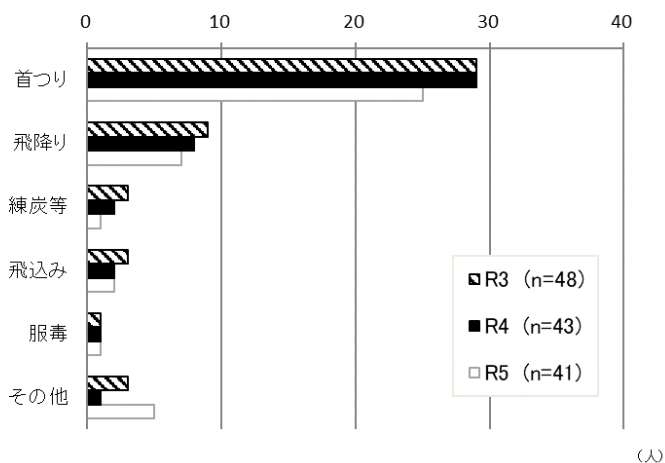


図9 手段別にみた自殺者数の経年比較



⑤場所

令和5年の場所別自殺者数の割合では、「自宅等」が最も多くなっており、経年でみても同様です。

図10 場所別自殺者の割合(%)

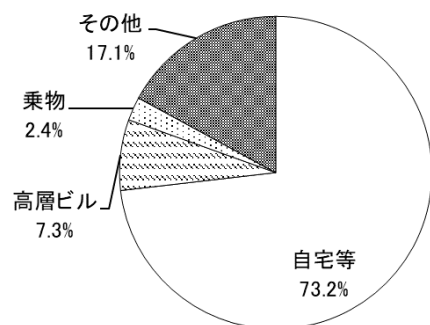
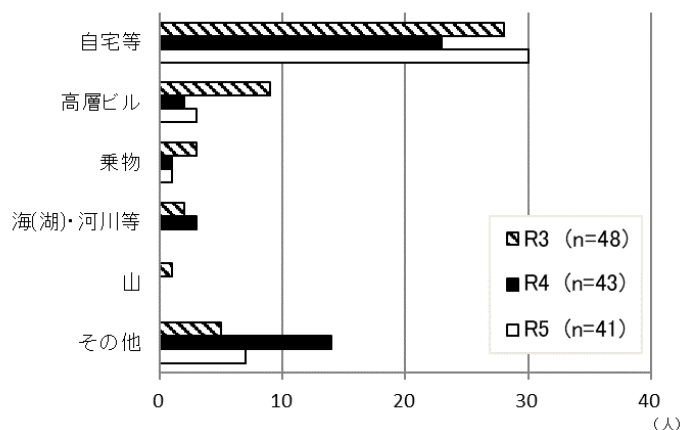


図11 場所別にみた自殺者数の経年比較



⑥自殺未遂歴

自殺未遂歴の有無では、令和5年は「あり」が17.1%となっています。

図12 自殺未遂歴の有無の割合(%)

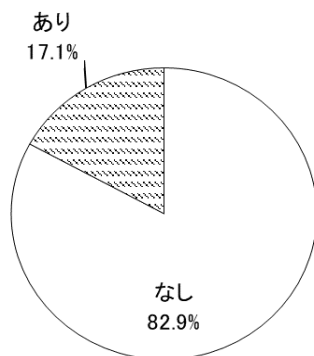


図13 自殺未遂歴の有無の経年比較

